

# 養気軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』  
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

093 | 感染予防

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

## 正しい手の洗い方



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



手の甲をのぼすようにこすります。



指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗いします。手首も忘れずに洗います。



手洗いの前に

- ・爪は短く切っておきましょう
- ・時計や指輪は外しておきましょう

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

## 正しいマスク着用の方



鼻と口の両方を  
確実に覆う



ゴムひもを耳にかける



隙間がないよう  
鼻まで覆う

## 感染予防は正しい手洗いとマスク着用が大切！

2019年末に新型コロナウイルス感染症が発生して以来、はや3年目を迎えようとしています。

ウイルスは恐ろしいスピードで変異を続け、デルタ株からオミクロン株へと新たなウイルスが流行しています。

また、今年はインフルエンザの流行も懸念されています。季節性インフルエンザはいったん流行が始まると、短期間に多くの人に感染が広がります。日本では、例年12月～3月が流行シーズンです。

新型コロナウイルス感染症は、例年4・5月(春)、8月(夏)、1月(冬)の春休み・夏休み・冬休みに人が移動するため、感染の波が襲ってきます。

私たちに出来ることは、「正しい手洗い」「正しいマスク着用」「換気」です。

これらは、新型コロナウイルス感染防止に最も効果的であると言われています。

正しい方法を身に付け、感染予防を心がけていきましょう。☑

(危機管理センター 感染対策室 内野 めぐみ)



# 人工肛門や手術後の創傷管理について-3階病棟-

3階病棟 看護師長 蛭原 勇治

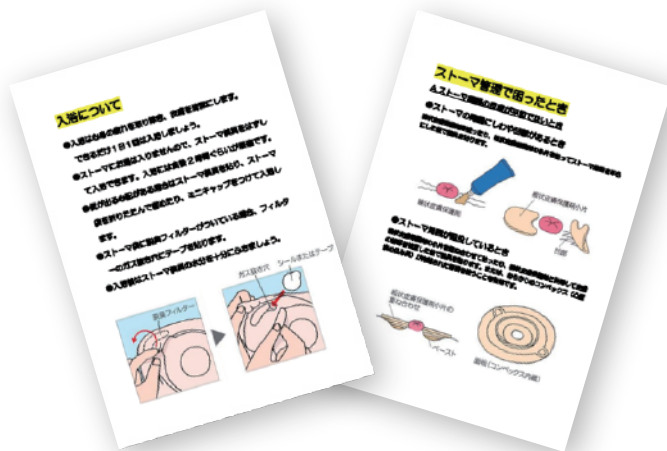
3階病棟では、手術後の創部の管理・人工肛門の管理などを、患者さんとともに看護師だけでなく多職種で連携して行っています。

3階病棟には皮膚・排泄ケア認定看護師が在籍しており、専門的な知識や技術をもとに、適した装具の選択や手術による心身の変化に寄り添った看護の提供、生活上の各種手続きに関する支援などをさせてもらっています。また、定期的に学習会や検討会を行い

知識や技術の向上に努めています。

様々な世代の患者さんやご家族が病気とうまく付き合いながら、その人らしく過ごせるよう支援させてもらっています。

患者さんやご家族が少しでも「川棚医療センターで治療して良かった」と感じていただけるよう頑張っていきたいと思います。



## 長崎川棚医療センター広報誌『養気軒』



『養気軒vol.100』まで、あと7号!

# 職員のワクチン接種について

管理課長 白石 剛

新型コロナ感染者数は減少傾向ですが、今冬は、新型コロナと季節性インフルエンザの同時流行が懸念されています。

長崎川棚医療センターでは、職員に対しての新型コロナワクチンの4回目接種を9月に終え、現在、インフルエンザワクチンの接種準備を進めています。



基礎疾患がある方や高齢者など重症化リスクのある方々の診療を行う医療機関として、安心して受診していただけますよう、今後も感染予防対策の徹底に努めて参ります。

皆さんもマスク着用・手洗い・うがい等の基本的な感染予防対策の徹底を心がけましょう。

## COVID-19 / SEASONAL INFLUENZA

長崎川棚医療センター広報誌「養気軒」バックナンバーはホームページからもご覧いただけます。



スマートフォンからご覧になれます。  
QRコードからどうぞ!



「長崎川棚医療センター」ホームページ  
<https://nkmc.hosp.go.jp/>



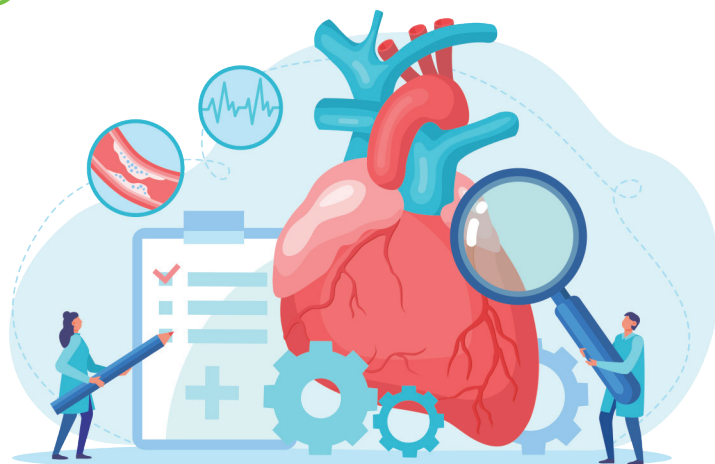
## 診療科紹介(循環器内科)

循環器内科部長 二宮 暁代

心不全、虚血性心疾患、不整脈、肺血栓塞栓症、高血圧などの循環器疾患全般に対応させて頂いています。入院患者さんは、心不全の患者さんが最も多いです。

虚血性心疾患に関しては、負荷心電図や冠動脈CTなどを駆使して検査を行い診断し、治療法を選択しています。また、2020年8月より心臓リハビリを開始し、心不全の重症化を防ぐため、また心不全の回復に向けて、栄養指導も含め多職種と協力して加療させて頂いています。

医療の進歩に伴い治療の選択肢は増えておりますが、不整脈治療なども当院で可能な限り対応させて頂いています。まずは、気軽に御相談下さい。



# CARDIOLOGY

## 部署紹介(4階病棟)

4階病棟 看護師長 颯川 俊也

4階病棟は、地域包括ケア病棟として急性期の治療を終えた患者さんが自宅や施設へ退院されるまでの期間、治療やリハビリ継続を支援することを主な役目とした病棟です。フロアにはリハビリスペースがあり、リハビリテーション科とも連携しながら患者さんのADL拡大に向けて支援を行っています。

今年度は、“患者さんの「自分はどうしたい」、ご家族の「患者さんにこうしてあげたい」を実現させる退院支援・看護の提供ができる”ことを病棟目標に、患者さん・ご家族の思いや希望を尊重した退院支援・関わりができるようにスタッフ全員で取り組んでいます。



患者さんが少しでも早く退院できるよう、他職種とも連携しながら看護の提供をいたします。

## 編集後記

脳神経内科医長 成田 智子

あっという間に月日は経つもので、猛暑が続き熱中症アラートが出ていたかと思えば、もう秋風が吹いています。毎日の仕事や日常に追われ、かまわず過ぎていく季節に置いて行かれます。せめて日々の食卓くらいは季節ごとの旬のものを味わいたいと思い、乏しいレパートリーを駆使して夕飯のメニューを考えます。

そろそろトウモロコシもオクラも梨も終わり、柿が出た、サンマを食べたいけれど高い、イカを焼こうか、時間がないので今日は残りで、カボチャを炊いておこう、お弁当もそれで乗り切って・・・と。暮らしの中に、何かしら小さな特別を見つけて、心身ともに健やかに暮らしたいものです。